

全ての争議を解決し  
安全・安心の航空を

航空連ニュース

航空労組連絡会  
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル  
Tel 03-3742-3251  
Fax 03-5737-7819  
No.970 (34-20) 2020年3月12日

ダッシュ 20 春闘

## 広がる新型コロナウイルスの影響

# 生活や健康、安全を守る対策急務

今、新型コロナウイルスの感染が世界規模で広がりを見せており、感染予防は各国の緊急の課題になっています。同時に働く者の生活や健康、安全を守る対策が求められます。

20春闘は、12日前後に賃上げ回答が示される状況にありますが、航空では新型コロナウイルスの感染拡大予防のために団体交渉が一時中断されるなど春闘回答が遅れていますが、3月3日に全日空で乗組要求に回答が示されました。日本航空では新中期計画の策定が遅れることを理由に賃上げ等の原資を伴う回答は新中期計画策定後になることがJALグループ内各労組に伝えられています。

### 新型コロナで航空各社の旅客減少 JAL・ANAは豊富な手元資金

新型コロナウイルスによって世界の人とモノの流れが停滞し、旅客の減少を招いていますが、一方で、JAL・ANAのリスク耐性が注目されています。日経新聞(3/7付)は、手元の現預金が売上高の何か月分あるかで資金繰りの「耐性」をみると、「JAL約2.7カ月分、ANAも2.3カ月分あり、米国のアメリカン・デルタは1カ月分程度なので厚め」、「両社の財務基盤の強さに改めて光が当たっている」。これを裏付けるように日本航空は「マネージメントナウ」で「破綻以降の10年でしっかりと高収益体質を築き上げ、内部留保を確保してきたので、今回の危機に耐えられる体力を有しています」。今こそ内部留保を社員に還元を！

### 全日空、2乗組に春闘回答を提示

#### 回答は評価できない 交渉を継続

全日空は3月3日、2乗組(ACA、APU)の春闘要求に回答を提示しました。会社は、首都圏発着枠拡大に伴う諸問題で問題解決に前進を示しましたが、手当の増額要求、シニア要求、勤務開始時間見直しには答えませんでした。

ACAは今春闘で、①手当(職務・変動付加・深夜関連)の増額要求、②シニア乗務制度の改善、③首都圏空港発着枠拡大に伴う諸問題

(採用、足元の疲弊間の改善、勤務制限など)の会社の考えを質しました。採用数など諸問題に関して一部前進がありましたが、手当増額やシニア関係で前進回答はありませんでした。APUでは、①空港特性を踏まえた勤務開示時間の見直し、②乗員養成、③変動付加手当の増額の3つの要求に対し、前進回答はありませんでした。両乗組は引き続き前進回答を求めています。

### 万全を期す新型コロナ対策申入れよう

新型コロナウイルス対応は日々変化しています。既に実施されている事も含めて再点検し、問題点は事後処理も含め、従業員に被害が生じないよう対応を求めていきましょう。

- ①有期社員等、休むと減収になる従業員への救済措置をとること。
- ②休校等に対応して休みを取らざるを得ない場合に対応した救済措置。政府が助成措置を講じる状況も踏まえ、有給無事故扱いや特別繰り越し休暇の取得などの救済措置を講じること。
- ③感染リスク低減措置。すでに実施しているマスク配給やイベントの延期・中止などに加え、濃厚接触を避けるために、必要に応じサービス内容を見直すこと等。
- ④ダウンサイジング等々、新型ウイルス対策として稼働が高まっている場合は、安全確保の観点から、勤務軽減等の必要な対応策を講じさせること。

新型コロナウイルス対策に万全を期すよう会社へ申し入れることを呼びかけます。